



ビジネスパーソンにとって
 どうすれば仕事をうまく引き
 継げるのかは関心事のひとつ
 だろう。人事や組織運営に詳
 しいインディゴブルー（東京
 ・港）の柴田励司会長に、コ
 ロナ禍を受けた変化や課題、
 注意点を聞いた。

——コロナ禍による在宅勤
 務の定着もあり、オンライン
 で引き継ぎをする場面が増え
 ています。
 「仕事をするうえで、引き
 継ぎの大切さは変わらない。
 ただしインターネット環境が
 充実してきて紙資料の受け渡

予定も共有、伝える工夫を

インディゴブルー会長
 柴田 励司氏

しや資料保存の必要性は薄れ
 た。オンラインでのやりとり
 にはセキユリティ上の問題
 なども指摘されるが、多くの
 人はこうした環境の変化に適
 切に対応することの重要性を
 認識しているはずだ」

「コロナ禍で悩ましいのは
 対面での会話や営業が制限さ
 れてしまうことだ。例えば取
 引先の性格や雰囲気、過去に
 どういった関係ややりとりが
 あったかなど、文書ファイル
 やメールではなかなか伝えに
 くい、受け取りにくい内容の
 ものもある」

場合が出てきます。注意すべ
 き点がありますか。

「当たり前のことかもしれ
 ないが、手元に過去のマニユ
 アルや引き継ぎ資料があつて
 も、そのまま後任に送り付け
 るのは避けるべきだ。コロナ
 禍も含めて直近の情勢によっ
 て仕事のやり方が変わってい
 るはずだ。後任に伝えたいポ
 イントも変わる。慌ただしい
 時期だとは思いますが、内容を一
 度見直してみるといい」

「私自身の経験だが、後任
 に直近1カ月のスケジュール
 表を共有したことがある。こ
 の仕事にこれくらいの時間を
 かけている、火曜日には会議

が多く入る、といった具合で
 仕事のイメージが伝わる。細
 かい指示よりも分かりやすい
 のではないか。オンラインな
 らそれほど難しくはない。こ
 れに限らず、対面でできない
 といつても、何らかの工夫を
 考える余地はあるはずだ」

——ウェブ会議システムは
 引き継ぎにも有効ですか。
 「やはり表情がみえるのは
 大きい。取引先に後任を直接
 連れていくのが難しい状況だ
 としても、ウェブ会議の場が
 設定できれば、それで補える
 部分は確かにある。後任の担
 当者にとっては大事な機会に
 なるだろう。コロナ禍や働き
 方改革で環境は変わるが、そ
 の変化に対応する方法を常に
 考えていく必要がある」